

各候補者の第一声

9日に告示された三島市長選は、現職と新人2人の三つどもえの戦いとなった。市長の座を争う各候補者の第一声を紹介する。(佐久間博康、杉原雄介)＝右から届け出順

三島市長選告示 現新三つどもえの戦い

石井 真人さん 39 無新



＜略歴＞ コンサルティング会社社長・環境保護団体理事▽慶大院

未来ある町づくりを

五十一億円の借金をして高層マンションを建てる計画をこのまま続けられ、三島がだめになつてしまふ。人口と税収が減り、福祉や介護、医療といった社会保障費が年々増えている。大きなハコモノを造つてにぎやかにやる時代は終わりにしないといけない。歴史や自然、富士山の景色など都会にない三島の宝をもっと活かしていく。むだを省き、しっかり稼げる行政にして、人に寄り添える町づくりをしたい。未来ある町をつくるには三千年先を考えて何をやるべきか考えないと。少子高齢化時代にみんなで力を合わせるために、しっかりした政策や思いを伝えて若者にも選挙に行ってもらい、子どもたちに借金を回す古い政治を変えたい。

宮沢 正美さん 69 無新＝旧



＜略歴＞ 市ソフトボール協会会長▽県議・自民党県幹事長・市議▽並山高

市民が主役の市政に

市民が主役の公正公平な市政の実現のために立候補した。税金の使い方や市役所のガバナンスなどの問題を一掃し、次の時代に向かえるような新しい行政システムをつくりたい。障害者福祉や高齢者福祉、子育て支援を充実させ、誰もがこの街に生まれて良かったという共生社会を実現する。県東部を代表する学園都市を目指し、人

豊岡 武士さん 75 無現＝



＜略歴＞ 市長・美しい伊豆創造センター会長▽県議・県職員▽日本獣医畜産大

観光を発展させたい

十年、二十年先を見据えて輝く三島にしなければならぬ。これからは人口が減少する時代。少子高齢化が進み、働く人が減る中で、皆さんと一体となつてチーム三島で地域経営をしていく必要がある。観光資源を生かし、外国人を含め多くの人に三島にお金を落とすように観光を発展させたい。農業、商業、工業の

発展を図るとともに、企業誘致や工業団地を整備し、多くの若者が働く場所をつくる。魅力と活力ある三島にするため、駅前開発を進める。東街区は広域健康医療拠点やマンションを計画しており、駅前開発により持続的な発展ができることを考える。私が先頭に立つて輝く未来の三島づくりのために全身全霊をかけて取り組む。